

令和4年度 江戸川区立鹿骨小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	自立と貢献	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・「学力保障」を果たす学校 ・自立し貢献する児童 ・組織人として共通実践し、各学年での指導責任を果たす教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・学校公開の保護者の感想や年度末評価において、おおむね満足いただいている。学校独自の標準学力調査においても、着実に学力向上が図れている。 <課題>・学校選択率は50%前後である。 ・全体的に学力は向上してきているが、高学年になるほど学力達成率は低い。「学力保障」を通して学校の魅力を高め、「選ばれる学校創り」を進めていく必要がある。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①標準学力調査の実施 ②小中連携研修の実施 ③一人1台端末の活用リスト作成 ④業者による「カムバック教室」、全教員による補習「サンライズ教室」、「担任補習」(トリプル補習)の実施 ⑤中・高学年ブロックにおける教科担任制の実施 ⑥「eライブラリアドバンス」「東京ベーシック・ドリルの活用」	①国語・算数の達成率80%、理科の達成率70% ②小中連携研修年3回、中学校教員を招いての校内研修会年4回 ③全学年で活用リストを作成 ④カムバック教室年150回、サンライズ教室・担任補習各35回以上 ⑤各ブロック内で、1教科以上 ⑥「江戸川っ子studyweek」1年3回、「家庭学習週間」年2回、提出率・取組率90%	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ●国語62.0%、算数64.6%、理科51.0% ○小中連携研修2回実施済、中学校教員を招いての校内研修会年3回実施済 ●作成中 ○カムバック教室67回実施済、サンライズ教室18回実施済 ○中・高学年ブロックの社会科・理科で実施 ○「江戸川っ子studyweek」1回実施済、「家庭学習週間」1回実施済、全学年で提出率・取組率90% 	B	・6つの事業への取組が素晴らしいと思います。個々の学力に合わせたフォローアップを継続してください。 ・放課後補習は、共働き等で家庭学習時間が十分にとれない家庭にとってはありがたい取組だと思います。補習へのマイナスイメージをもつ子供もいるようです。継続することで、児童も真剣に勉強に取り組む、今後の学力向上につながると思います。 ・家庭と連携して、学習する習慣を身に付けさせることがとても大切だと思います。	・②、④～⑥については、計画通りに実施できている。今後も計画通りに実施するとともに、内容をより重視した取組とできるようにする。 ・①の標準学力調査については、目標値を達成できなかった。誤答傾向を分析し、「授業中における既習内容の復習や適用問題の練習の時間確保」や「各種補充教室の回数増」等によって、学習課題の克服が確実に図れるようにする。2学期末には類似問題で再調査を実施し、目標値達成を目指す。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	①毎朝マラソンの実施、マラソン週間の設定 ②鹿骨タイム(休み時間を活用した運動遊び)の実施 ③ランジオ体操等の外部講師を招いた運動機会の確保 ④夏季休業中水泳指導、校内水泳大会の実施	①毎日実施、学期1回のマラソン週間の設定 ②月1回以上、体力調査項目の80%以上で区平均以上 ③各学年1回以上 ④50mを泳げる高学年児童70%	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎朝マラソン毎日実施、1学期は暑さのためマラソン週間実施は見送り ○鹿骨タイム6・7月に各1回実施(4・5月は感染症対策のため、未実施) ○全学年を対象で、外部講師を招いたランジオ体操教室を実施 ●夏季水泳教室10回実施、校内水泳大会実施、50mを泳げる高学年児童35% 	B	・体力向上と学力向上は、相関していると思います。体力が付けば、学習の集中力にもつながると思います。 ・意欲的にマラソンに取り組んでいる子供がいる一方で、意欲が低い子供への働きかけも大切だと思います。 ・夏季水泳教室、校内水泳大会と、これまでコロナ禍でありできなかった水泳に取り組める機会が多いことは、原資のやる気にもつながったと思います。	・今後も毎朝マラソンを継続するとともに、2・3学期にはマラソン週間を実施し、体力向上を図る。 ・体力調査の結果が届き次第、成果と課題を分析し、体育の授業や鹿骨タイム等の取組内容に反映させる。 ・水泳検定結果の保存、水泳の指導内容や方法等についての見直しを実施し、児童の実態に合った指導や共通した指導の徹底が図れるように次年度の実施計画書を作成する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①読書科の設定 ②学校図書館司書と連携した探究的な学習の実施 ③評価の実施	①年間延べ23時間以上 ②各学年級年1回以上 ③学校関係者評価年2回、自校及び保護者評価年1回	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○読書8時間実施 ●すべての学年で未実施 ○学校関係者評価中間を実施 	B	・本と親むる機会が少なくなる時代です。身近に本があるよさ、楽しさを教えていただければと思います。 ・各学年、本を読んだ後に感想を書いたりすることで本を読む楽しさや興味もより深まってくるのではないかと思います。 ・低学年の読み聞かせは、本に興味を持たせるきっかけになるのではないかと思います。	・学校図書館司書と読書科担当教員を中心に、学校図書館のレイアウト変更を実施している最中である。現在はそちらに偏重している状況である。環境整備が落ち着き次第、2学期中にすべての学年で学校図書館司書と連携した探究的な学習を実施する予定である。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	①バラスーツを通しての交流活動 ②副籍交流の推進 ③スマイル教室(エンカレッジルーム)、教育相談室の環境整備 ④不登校児童の居場所等、多機能な役割を持つ部屋の活用	①年1回以上 ②直接交流または間接交流を年2回以上 ③環境整備年3回以上、扉工事等による明るく空間づくり ④ミニルーム、オープンルームの充実	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●未実施 ○間接交流を毎月実施(直接交流は、感染症対策のため見送り) ○環境整備日1回実施、扉工事を実施済 ○不登校児童2名の放課後登校時やに外国籍児童の日本語指導の際に、ミニルームを活用中 ●オープンルーム整備中 	B	・バラスーツを通しての交流活動の実施をぜひお願いいたします。 ・子供一人一人への支援に、合理的配慮のある取組が必要だと思います。	・2学期に、高学年でバラスーツ体験を実施する。 ・環境整備日を設け、オープンルームの整備を早急に進捗させる。(現時点では冷暖房設備がないため、使用は10月以降の見込み) ・各教室の掲示物の統一、鹿骨小スタンダードの徹底により、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境づくりに努める。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	①江戸川区子どもの権利条例の理解 ②「hyper-QU」の実施 ③スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携 ④情報共有や取組状況を確認する機会を確保 ⑤一人1台端末やお手紙ボックスを活用した教育相談、「学校生活アンケート」の実施	①権利条例や命に関する授業を年3回以上 ②「hyper-QU」年1回 ③月1回以上の連絡会実施、3・5年生のスクールカウンセラーによる全員面談 ④生活指導報告会週1回以上 ⑤お手紙ボックスの常設、「学校生活アンケート」年3回	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○権利条例や命に関する授業をすべての学年で2回実施済、道徳授業地区公開講座実施済 ○「hyper-QU」を実施済 ○月1回以上の連絡会を実施、5年生の全員面談実施済、3年生は未実施 ○生活指導報告会週1回以上実施 ○「学校生活アンケート」1回実施済 	A	・不登校児童については、これからも子供の気持ちを受け止めて、じっくり関わることで元気になると感じますので、これからもよろしくお願ひいたします。	・6月のふれあい月間、9月の授業参観日には、すべての学年で道徳授業、「学校生活アンケート」を実施した。11月のふれあい月間でも同様の取組を実施する。 ・3年生の全員面談、不登校傾向がある児童・保護者との面談を継続する。 ・「hyper-QU」の結果や日頃からの細やかな見取りから、いじめや不登校の早期発見、早期対応に努める。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	①授業参観日における評価 ②保護者評価の実施 ③学校関係者評価の実施 ④学校選択率向上のための広報活動	①年5日以上の授業参観日設定、年5回以上の参観アンケート実施 ②年1回(12月) ③年2回(9月1月) ④授業体験・学校説明会等の案内配布、学校ホームページの記事更新週1回以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観日2回、参観アンケート2回を実施済 ●未実施 ○学校関係者評価中間を実施 ○授業体験・学校説明会等の案内配布と実施、学校選択率の向上(選択率51%、学区域内外希望者数39名) ●学校ホームページの記事更新週1回以上未達成 	B	・多くの取組が、子供たちに良い効果を及ぼしていると感じています。コロナ禍で、授業参観や行事が思うようにできない中、少しずつ行事も開催され、保護者、児童たちにも笑顔が見られるようになってきたと感じます。 ・学校ホームページの記事更新週1回以上未達成	・感染症対策を講じながら、学校行事や授業参観等を可能な限り実施し、本校の教育活動への理解を深めてもらう。 ・来年度1年生は2クラスになる見込みである。学校ホームページの更新や学校行事等の案内を通して、選ばれ続ける学校創りを進める。
	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	①職員会議の廃止、月1回の経営会議・4部会、校務支援システムの活用 ②各種研修・報告会のモジュール実施	①校務支援システムの活用率100% ②勤務事故防止研修、ICT活用研修の連続1時間以上設定をなくし、5分×12回以上、延べ1時間以上を実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校務支援システム活用率100% ○勤務事故防止研修30分研修2回、5分研修7回を実施 ●ICT活用研修2回実施(実施率16%で計画以下) 	B	・今後も、いろいろな面でGIGAスクール構想によるICT活用で事務的な負担軽減を図っていくことが大切だと思います。	・勤務事故防止研修を通して、教職員のモラル向上を図ることができている。引き続き、保護者や地域からの信頼を得ることができるよう、教職員の研修を行う。 ・ICT活用については、モジュール研修の実施があまりできなかった。2学期終了時まで、実施率を70%まで引き上げられるように、ICT支援員と担当者に取り組みを。